

# 令和2年度教育研究（研修）・教育指導の充実に関する研究グループ

## 教育指導に関する取組

### 1 教育指導グループ組織

### 2 研究内容

B 小学校高学年における効果的な教科担任制の推進	参加対象	担 当
(1) 小学校高学年の教科担任制に係る諸課題等への対応	各小学校 1名以上	高田校長 ◎西尾・桑原
C 学習指導に関する諸課題への対応	参加対象	担 当
(1) 学習規律の徹底や家庭と連携した学習習慣の改善・充実	各校1名以上	櫻庭校長 ◎澤田・久保
(2) その他の諸課題への対応（家庭学習の在り方等）		
<b>【B-1】</b> 小学校高学年の教科担任制に係る諸課題への対応 (1) 小学校高学年での教科担任制の実態把握 (2) 教科担任制の取組方や指導の工夫の交流 (3) 教科担任制の指導による成果と課題	<b>【C-1】</b> 学習規律の徹底及び改善に向けた取組 (1) 学習規律の徹底や家庭との連携に向けた各校ミドルリーダー間交流の企画・運営 <b>【C-2】</b> その他の諸課題への対応(家庭学習の在り方等) (1) 児童生徒の発達段階に応じた家庭学習のあり方の交流の企画・運営 (2) 主体性を高める指導のあり方に関する各校ミドルリーダー間交流の企画・運営	

### 3 今年度の活動経過

年	月	日	【B-1】 小学校高学年の教科担任制に係る諸課題等への対応	【C-1】 学習規律の徹底や家庭と連携した学習習慣の改善・充実 【C-2】 その他の諸課題への対応（家庭学習の在り方等）
2	5	11	□第1回教育改善プロジェクト委員会全体会議(書面開催)	
		25	□第1回教育改善プロジェクト委員会研究グループ会議 ●研究内容・計画の説明, 分担等 ●各取組の年間活動計画の検討	
	6	15	□第2回教育改善プロジェクト委員会研究グループ会議 ●研究推進計画の説明	
		25	□第2回教育改善プロジェクト委員会全体会議 ●研究推進計画等の確認	
			○各小学校での教科担任制の実態把握(教頭会議、教頭間での情報交換)	○各校へアンケートの配布(6/23) ・学習規律の徹底に関する取組についての課題及び改善策について ・各校の家庭学習の取組内容について ・主体性を高める家庭学習の在り方についての方策及び課題について

	7	6	○教科担任の実態等についてアンケート実施	○アンケートの集約
	8		○教科担任の実態等についてアンケートのまとめ	
	10	2	○教科担任制の実態交流、取り組み方や指導の工夫の交流（集合形式）名寄南小会議室 ○教科担任制の指導による成果と課題	○第1回Cグループ会議(10/2) ・アンケート結果の交流と改善に向けた取組の共有 ・次年度に受けた取組 ・年度のまとめ（成果・課題）
	11		○成果と課題の検討	
	12	8	□第3回教育改善プロジェクト委員会全体会議・研究グループ会議 ●各取組のまとめ ●研究の成果と課題の提示 ●次年度について	
3	1		☆教育長へ研究のまとめを報告（答申）	
		26	名寄市教育研究集会 EN-RAYホール	

## 4 今年度の活動

### (1) 小学校高学年における効果的な教科担任制の推進

資料5

- 1) 市内小学校の教科担任制の実態把握
- 2) 国や先進事例の共有
- 3) 各校の取り組み方や指導の工夫の共有

### (2) 学習指導に関する諸課題への対応

資料6

- 1) 学習規律及び家庭学習の取組について全小中学校へのアンケートを実施
- 2) 学習規律に関わる取組についての交流
- 3) 家庭学習のあり方についての交流

## 5 成果と課題

### 【成果】

- 教科担任制を行うことで専門性をもって教師によるきめ細かな指導ができ、同じ授業を複数回行うことで授業改善のサイクルができる。また、複数の教師で児童を見取ることでの生徒指導的な効果や今後、中1ギャップ解消へと繋がる取組になることが期待できる。授業準備等の軽減が図られるなど働き方改革の面でも効果が見られる。
- 各校の学習規律や家庭学習の取組の様子を交流できた。
- 小中の取り組み方を知ることで、小中一貫教育への意識が高まった。
- 自校の取組を改善するための参考になった。

### 【課題】

- ▲各学校で効果的な取り組み方を模索している段階であるため様々な課題があるが各校の実践を交流することで今後、改善が可能である。
- ▲現状は加配を活用しての専科教員が中心の取組となっているが、担任の授業交換を取り入れることで、加配の有無に関わらず取り組むことができる。次年度は、その具体的推進を図っていきたい。
- ▲学習規律の定着に向けて、マンネリ化しない指導の工夫が必要である。
- ▲小中間のスムーズな接続を目指した学習規律の設定が必要である。
- ▲児童生徒が取り組みやすい学習課題の提示が必要である。
- ▲自学自習の意識も含め、家庭学習の習慣の定着を図るために、さらなる家庭との連携が必要である。